

令和6年度入学 看護学部 学校推薦型選抜 試験問題の出典

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合問題	1	夏目 漱石	こころ	2004年 P128-133、P147-149より 一部改変	KADOKAWA
	2-図1	総務省消防庁	救急自動車による救急出動件数および搬送人数の推移（全国）	令和2年版 消防白書 救急出動件数及び搬送人員の推移（総務省消防庁）を参考に作成	総務省消防庁
	2-図2	総務省消防庁	救急自動車による現場到着所要時間及び病院収容所要時間の推移	平成17年版～令和2年版 救急・救助の現況 救急編（総務省消防庁）を参考に作成  （注）東日本大震災の影響により、平成22年および平成23年の釜石大槌地区行政事務組合消防本部及び陸前高田市消防本部のデータを除いた数値により集計している	総務省消防庁
	2-表1	総務省消防庁	令和元年 急病の傷病程度別の年齢区分別の搬送人員（全国）	令和2年版 救急救助の現況 救急編（総務省消防庁）を参考に作成	総務省消防庁
	2-図3	e-Stat人口統計	総人口および年齢（3区分）別人口（2019年）	e-Stat人口統計 都道府県、年齢（3区分）、男女別人口—総人口、日本人人口（2019年10月1日現在）を参考に作成	e-Stat人口統計
	2-表2	総務省消防庁	全国と岩手県、東京都の比較（2019年）と県都面積	令和4年版 救急・救助の現況 救急編（総務省消防庁）を参考に作成	総務省消防庁
	2-図4	岩手県央消防指令センター	岩手県県央の令和元年中の119番通報件数	岩手県央消防指令センター資料を参考に作成	岩手県央消防指令センター
	2-図5	岩手県央消防指令センター	岩手県県央の令和元年中の緊急性のない無効な通報の内訳	岩手県央消防指令センター資料を参考に作成	岩手県央消防指令センター

看護学部

総 合 問 題 (120分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、13 ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章は夏目漱石『こころ』の一節であり、父親の腎臓病が悪化したため、「私」が帰省している場面である。文章を読み、あとの問いに答えなさい。なお、文中に出てくる「先生」とは、「私」が敬意をいだけ人物であり、仕事に就かず、東京で妻とひっそり暮らしている。

私がいよいよ立とうというまぎわになって、(たしか2日まえの夕方のことであつたと思うが)、父はまた突然ひっくり返つた。私はその時書物や衣類を詰めた行李をからげていた。父は風呂にはいったところであつた。父の背中を流しに行った母が大きな声を出して私を呼んだ。私は裸体のまま母に後から抱かれていた父を見た。それでも座敷へつれてもどつた時、父はもう大丈夫だと言つた。念のために枕もとにすわつて、濡手拭で父の頭を冷やしていた私は、9時ごろになつてようやく形ばかりの夜食をすました。

翌日になると父は思ったより元気がよかつた。留めるのも聞かずに歩いて便所へ行つたりした。

「もう大丈夫」

父は去年の暮倒れた時に私に向かつて言つたと同じ言葉をまたくり返した。その時は、はたして口で言つたとおりまあ大丈夫であつた。私は今度もあるいはそうなるかもしれないと思つた。しかし医者はまだ用心が(カ)ンヨウだと注意するだけで、念を押してもはっきりしたことを話してくれなかつた。私は不安のために、(ウ)出立の日が来てついに東京へ立つ気が起らなかつた。

「もう少し様子を見てからにしましょうか」と私は母に相談した。

「そうしておくれ」と母が頼んだ。

母は父が庭へ出たり背戸へおりたりする元気を見ているあいだだけは平気でいるくせに、こんなことが起こるとまた必要以上に心配したり気をもんだりした。

「お前はきょう東京へ行くはずじゃなかつたか」と父が聞いた。

「ええ、少し延ばしました」と私が答えた。

「おれのためにかい」と父が聞き返した。

私はちょっと躊躇した。そうだとせば、父の病気の重いのを裏書するやうなものであつた。私は父の神経を(カ)ビンにしたくなかつた。しかし父は私の心をよく見抜いているらしかつた。

(ウ)「気の毒だね」と言つて、庭の方を向いた。

私は自分の部屋にはいつて、そこにほうり出された行李をながめた。行李はいつ持ち出してもさしつかえないように、(ウ)堅くくくられたままであつた。私はぼんやりその前に立つて、また縄を解こうかと考えた。

私はすわつたまま腰を浮かした時のおちつかない気分で、また3、4日を過ごした。すると父がまた卒倒した。医者は絶対に安臥を命じた。

「どうしたものだろうね」と母が父に聞こえないような小さな声で私に言つた。母の顔はいかにも心細さうであつた。私は兄と妹に電報を打つ用意をした。けれども寝ている父には、ほとんどなんの苦悶もなかつた。話をするとところなどを見ると、風邪でも引いた時とまったく同じことであつた。そのうえ食欲はふだんよりも進んだ。はたのものが、注意しても容易にいうことをきかなかつた。

「どうせ死ぬんだから、うまいものでも食つて死ななくっちゃ」

私にはうまいものという父の言葉が滑稽にも悲酸にも聞こえた。父はうまいものを口に入れられる日には住んでいなかったのである。夜に入ってかき餅などを焼いてもらってぼりぼりかんだ。

「どうしてこう濁くのかね。やっぱり心に丈夫のところがあるのかもしれないよ」

母は失望していいところにかえって頼みを置いた。そのくせ病気の時にしか使わない濁くという昔風の言葉を、なんでも食べたがる意味に用いていた。

伯父が見舞いに来たとき、父はいつまでも引き留めて帰さなかった。寂しいからもっといてくれというのがおもな理由であったが、母や私が、食べただけ物を食べさせないという不平を訴えるのも、その目的の1つであったらしい。

父の病気は同じような状態で1週間以上つづいた。私はそのあいだに長い手紙を九州にいる兄あてで出した。妹へは母から出させた。私は腹の中で、おそらくこれが父の健康に関して2人へやる最後の音信だろうと思った。それで両方へいよいよという場合には電報を打つから出て来いという意味を書き込めた。

兄は忙がしい職にいた。妹は妊娠中であった。だから父の危険が目の前にせまらないうちに呼び寄せる自由はきかなかつた。といて、せっかくつごうして来たには来たが、間に合わなかつたと言われるのもつらかつた。私は電報をかける⑥時機について、人の知らない責任を感じた。

「そうはっきりした事になると私にもわかりません。しかし危険はいつ来るかわからないという事だけは承知しててください」

停車場のある町から迎えた医者には私にこう言った。私は母と相談して、その医者の周旋で、町の病院から看護婦を1人頼むことにした。父は枕もとへ来て挨拶する白い服を着た女を見て変な顔をした。

⑦父は死病にかかっていることをとうから自覚していた。それでいて、眼前にせまりつつある死そのものには気がつかなくかつた。

「いまになおたらもう一ぺん東京へ遊びに行ってみよう。人間はいつ死ぬかわからないからな。なんでもやりたい事は、生きてるうちにやっておくに限る」

母はしかたなしに「その時は私もいっしょにつれていっていただきますよ」などと調子を合わせていた。

時とするとまた非常に寂しがつた。

「おれが死んだら、どうかお母さんを大事にしてやってくれ」

私はこの「おれが死んだら」という言葉に一種の記憶をもっていた。東京を立つ時、先生が奥さんに向かって何べんもそれをくり返したのは、私が卒業した日の晩のことであつた。私は笑いを帯びた先生の顔と、⑧エンギでもない耳をふさいだ奥さんの様子とを思い出した。あの時の「おれが死んだら」は単純な仮定であつた。今私が聞くのは、いつ起こるかわからない事実であつた。⑨私は先生に対する奥さんの態度を学ぶことができなかつた。しかし口のさきではなんとか父を紛らさなければならなかつた。

「そんな弱いことをおっしゃっちゃいけませんよ。いまになおたら東京へ遊びにいらっしゃるはずじゃありませんか。お母さんといっしょに。今度いらっしゃるときとびつくりしますよ、変っているんで。電

車の新しい線路だけでもたいへんふえていますからね。電車が通るようになればぜん町並も変るし、そのうえに市区改正もあるし、東京がじっとしている時は、まあ二六時中1分もないといつていいくらいです」

私はしかたがないから言わないでいいことまでしゃべった。父はまた、満足らしくそれを聞いていた。

病人があるのでぜん家の出入も多くなった。近所にいる親類などは、2日に1人ぐらいの割で代る代る見舞いに来た。なかには比較的遠くにいて平生(平)ソエンなものもあった。「どうかと思ったら、この様子じゃ大丈夫だ。話も自由だし、だいち顔がちつともやせていないじゃないか」などと言って帰るものがあった。私の帰った当時はひっそりしすぎるほど静かであった家庭が、こんな事でだんだんざわざわはじめた。

(中略)

父は時々うわごとを言うようになった。

「乃木大将にすまない。じつに面目次第がない。いえ私もすぐおあとから」

こんな言葉をひよいひよい出した。母は気味を悪がった。なるべくみんなを枕もとへ集めておきたがった。気のたしかな時はしきりに寝しがる病人にもそれが希望らしくみえた。ことに部屋の中を見回して母の影が見えないと、父は必ず「お光は」と聞いた。聞かないでも、目がそれを物語っていた。私はよく立って母を呼びに行った。「何か御用ですか」と、母がしかけた用をそのままにしておいて病室へ来ると、父はただ母の顔を見つめるだけで何も言わないことがあった。そうかと思うと、まるでかけ離れた話をした。突然「お光お前にもいろいろ世話になったね」などと優しい言葉を出す時もあった。母はそういう言葉のまえにきつと涙ぐんだ。そうしたあとではまたきつと丈夫であった昔の父をその(対照)として思い出すらしかった。

「あんな哀れっぽいことをお言いたがね、あれでもとはずいぶんひどかったんだよ」

母は父のために(箒)で背中をどやされた時の事などを話した。今まで何べんもそれを聞かされた私と兄は、いつもとはまるで違った気分で、母の言葉を父の(かたみ)の記念のように耳へ受け入れた。

父は自分の目の前に薄暗く映る死の影をながめながら、まだ遺言らしいものを口に出さなかった。

「今のうち何か聞いておく必要はないかな」と兄が私の顔を見た。

「そうだなあ」と私は答えた。私はこちらから進んでそんな事を持ち出すのも病人のために好し悪しだと考えていた。2人は決しかねてついに(おじ)伯父に相談をかけた。伯父も首を傾けた。

「言いたいことがあるのに、言わないで死ぬのも残念だろうし、といつて、こっちから(サイソク)するのもしも悪いかもしれず」

話はとうとうぐずぐずになってしまった。そのうちに(昏睡)が来た。例のとおり何も知らない母は、それをただの眠りと思ひ違えて、かえって喜んだ。「まあああして楽に寝られれば、はたにいるものも助かります」と言った。

父は時々目をあけて、だれはどうしたなどと突然聞いた。そのだれはついさっきまでそこにすわっていた人の名に限られていた。父の意識には暗い所と明るい所とできて、その明るい所だけが、(闇)を縫う白い

糸のように、ある距離を置いて連続するようにみえた。母が昏睡状態をふつうの眠りと取り違えたのもむりはなかった。

そのうち舌がだんだんもつれてきた。何か言いたしても尻が不明瞭におわるために、要領を得ないでしまうことが多くあった。そのくせ話しはじめる時は、危篤の病人とは思われないほど、強い声を出した。我々はもとよりふだん以上に調子を張り上げて、耳もとへ口を寄せるようにしなければならなかった。

「頭を冷やすといい心持ちですか」

「うん」

私は看護婦を相手に、父の水枕みずまくらを取りかえて、それから新しい氷を入れた氷嚢ひょうのうを頭の上へ載せた。がさがさに割られてとがり切った氷の破片が、嚢かぶろの中でおちつくあいだ、私は父のはげあがった額のはずれでそれを柔らかにおさえていた。その時兄が廊下伝いにはいつて来て、1通の郵便を無言のまま私の手に渡した。

(夏目漱石『こころ』, KADOKAWA, 2004年, pp.128-133, 147-149より, 一部改変)

問1 下線部(ア)～(オ)を、漢字で表しなさい。

問2 下線部(a)～(d)について、下の問いに答えなさい。

(1) 下線部(a)の「立」の読みと同じ読み方をする「立」の熟語を、下の枠の中から選びなさい。

直立 , 献立 , 脚立 , 建立
-------------------

(2) 下線部(b)と同じ読みの形容詞の漢字を3つ答えなさい。

(3) 下線部(c)について、「時期」でなくこの漢字であるのはどのような意味があるか答えなさい。

(4) 下線部(d)の熟語を用いて短文を作りなさい。

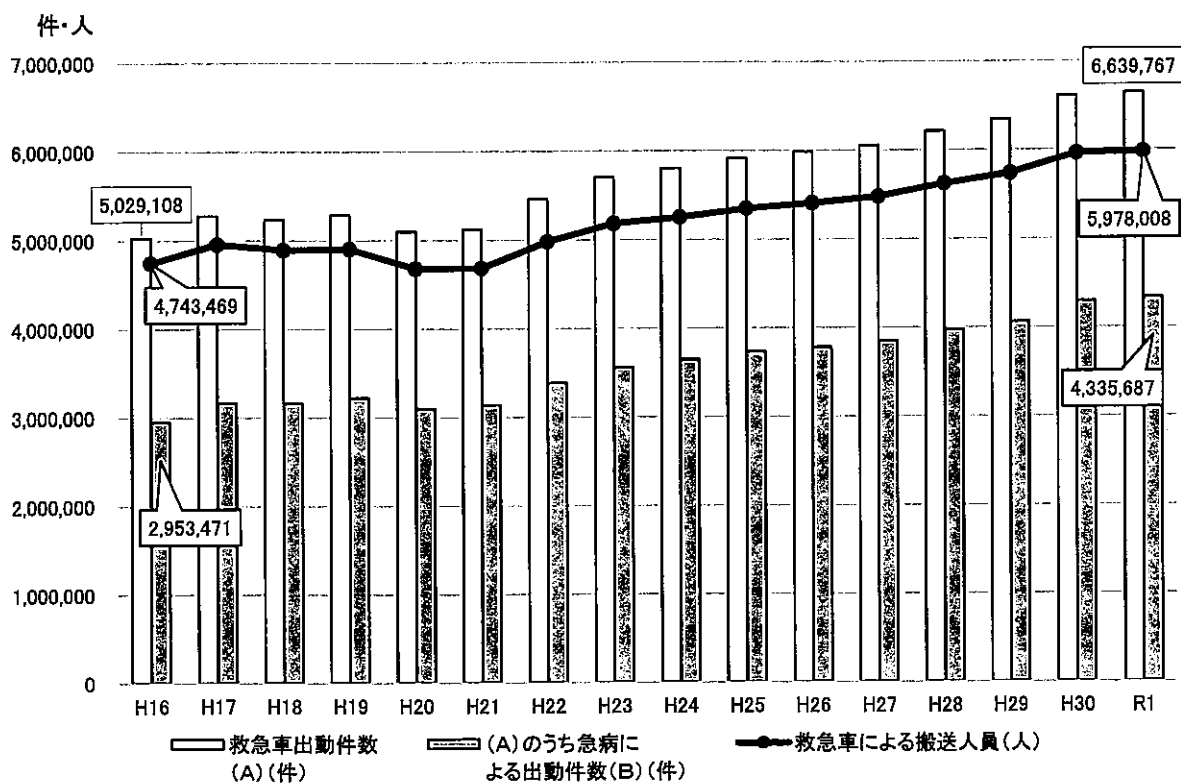
問3 二重下線部(A)「気の毒だね」という言葉について、父はなぜ私のことを「気の毒」と思ったのか、理由を書きなさい。

問4 二重下線部(B)について、「自覚」はしていたのに「気づかなかった」のはなぜか、その心理を50字以内で説明しなさい。

問5 二重下線部(C)「私は先生に対する奥さんの態度を学ぶことができなかった」のはなぜか、「仮定」と「事実」という単語を用いて100字以内で説明しなさい。

問6 二重下線部(D)の「柔らかに」という表現には私のどのような気持ちが表れているか、100字以内で説明しなさい。

2 次の図表をもとに、あとの問いに答えなさい。

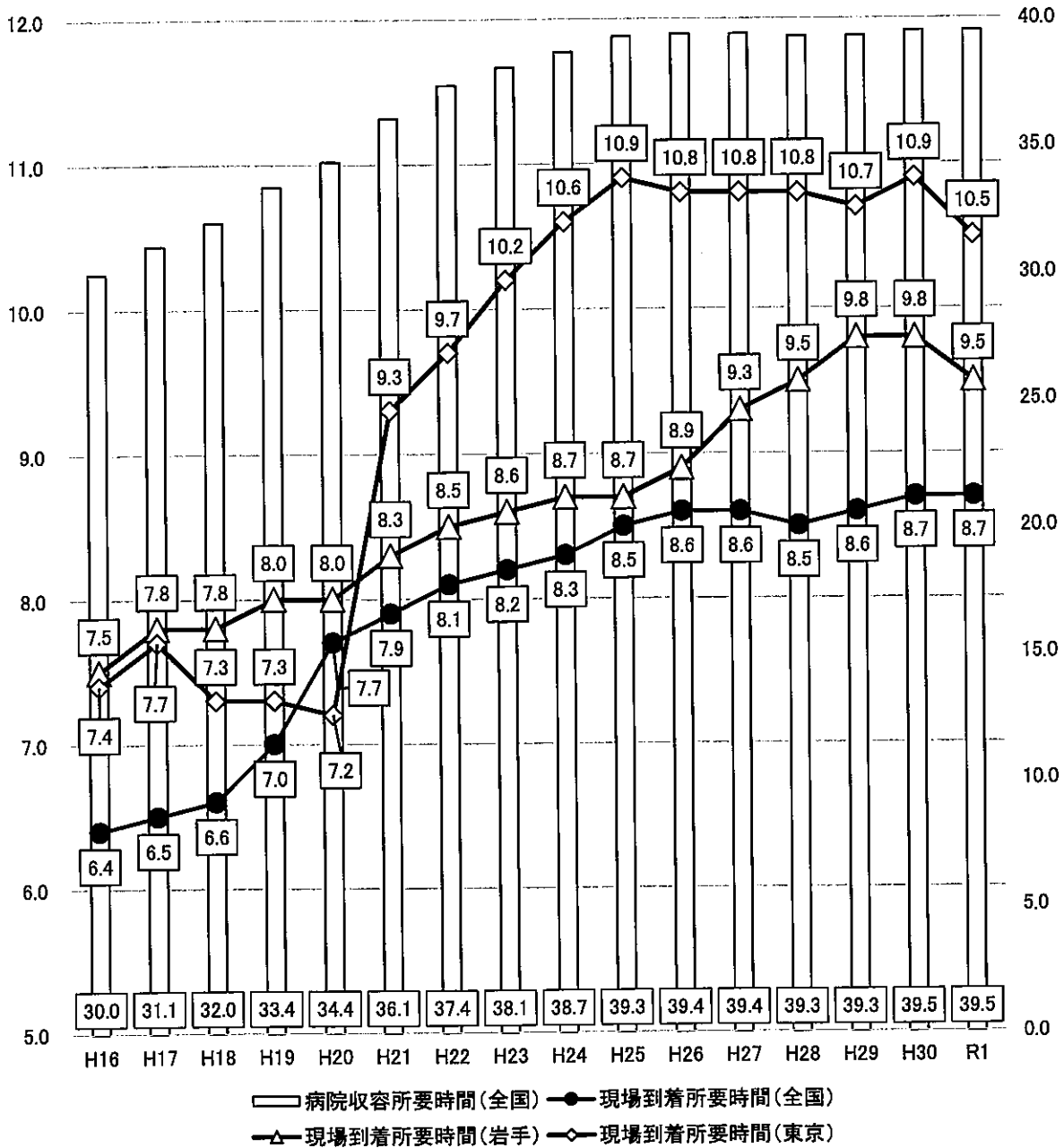


令和2年版 消防白書 救急出動件数及び搬送人員の推移（総務省消防庁）を参考に作成

図1 救急自動車による救急出動件数および搬送人数の推移（全国）

現場到着所要時間(分)

病院收容所要時間(分)



(注) 東日本大震災の影響により、平成 22 年および平成 23 年の釜石大槌地区行政事務組合消防本部及び陸前高田市消防本部のデータを除いた数値により集計している。

平成 17 年版～令和 2 年版 救急・救助の現況 救急編 (総務省消防庁) を参考に作成

図 2 救急自動車による現場到着所要時間及び病院收容所要時間の推移



表1 令和元年 急病の傷病程度別の年齢区分別の搬送人員（全国）

	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
死亡	60	269	73	7,303	54,522	62,227
重症（長期入院）	118	1,978	985	54,941	236,174	294,196
中等症（入院診療）	1,078	44,232	23,410	391,287	1,225,116	1,685,123
軽症（外来診療）	769	140,939	73,118	743,783	921,099	1,879,708
その他	6	24	29	350	611	1,020
合計	2,031	187,442	97,615	1,197,664	2,437,522	3,922,274

人

（注）傷病程度の定義

死亡：初診時において死亡が確認されたものをいう。

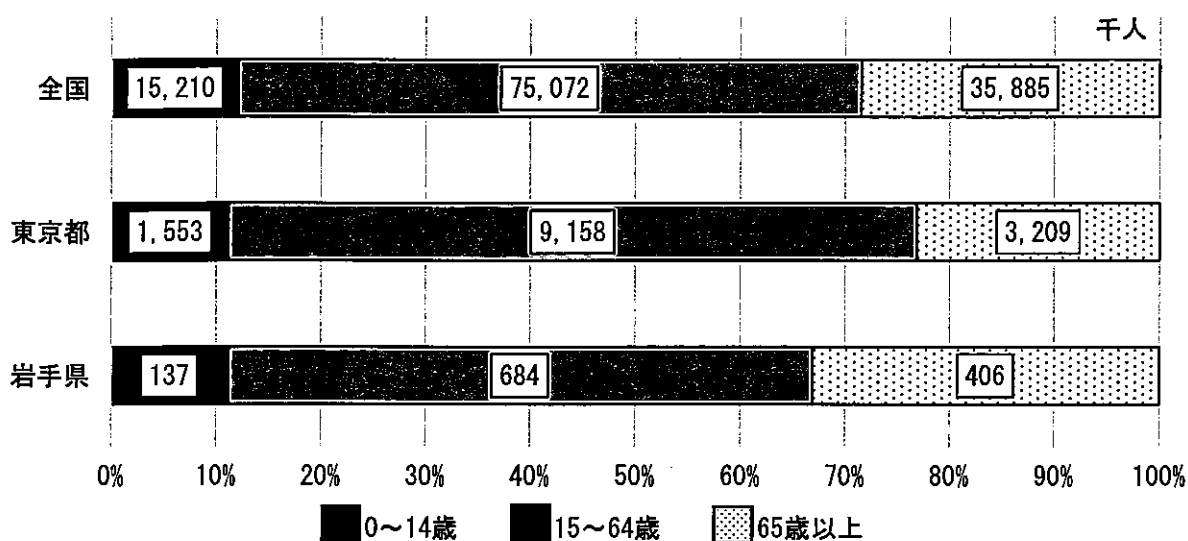
重症（長期入院）：傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするものをいう。

中等症（入院診療）：傷病程度が重症または軽症以外のものをいう。

軽症（外来診療）：傷病程度が入院加療を必要としないものをいう。

その他：医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したものをいう。

令和2年版 救急救助の現況 救急編（総務省消防庁）を参考に作成



e-Stat 人口統計 都道府県，年齢（3区分），男女別人口—総人口，日本人人口（2019年10月1日現在）を参考に作成

図3 総人口および年齢（3区分）別人口（2019年）

表2 全国と岩手県，東京都の比較（2019年）と県都面積

	一般病院数 (施設) (可住地面積 100 km <sup>2</sup> あたり)		一般診療所数 (施設) (可住地面積 100 km <sup>2</sup> あたり)		救急自動車数 (台) (人口10万人 あたり)		年間救急出動件数 (件) (人口千人あたり)	
	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位
全国	5.9	/	83.7	/	5.0	/	52.6	/
岩手県	2.0	45	23.7	46	8.2	7	42.9	41
東京都	41.4	1	964.2	1	2.6	47	59.7	3

全国：378,000 km<sup>2</sup>，東京都の面積：2,194 km<sup>2</sup>，岩手県の面積：15,280 km<sup>2</sup>

令和4年版 救急・救助の現況 救急編（総務省消防庁）を参考に作成

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

岩手県央消防指令センター資料を参考に作成

図4 岩手県県央の令和元年中の119番通報件数

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

岩手県央消防指令センター資料を参考に作成

図5 岩手県県央の令和元年中の緊急性のない無効な通報の内訳

問1 図1において、救急車出動件数の内、急病による出動件数の割合を、平成16年と令和元年とで比較し、どちらが何ポイント大きいか答えなさい。式を書いて、答えは小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

問2 図2において、平成16年と比較して令和元年の現場到着所要時間(全国)および病院収容所要時間(全国)はそれぞれ何%増えたか。式を書いて小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

問3 表1において、急病の搬送人数における軽症(外来診療)について、読み取れることを110字以内で書きなさい。

問4 全ての図をみて、あてはまるものには○、あてはまらないものには×をつけなさい。

1. 全国について救急車による救急出動件数は毎年増加し、現場到着所要時間が延長している。
2. 全国について令和元年の救急車による搬送人員のうち急病で搬送される人数は、6割を超える。
3. 65歳以上の人口割合は、全国と比較して岩手県は大きく、年間救急出動件数も全国と比較して多い。
4. 岩手県県央の119番通報件数について、緊急性なし(無効)の通報は1割未満である。

問5 図2より救急車の現場到着時間について、岩手県は毎年、全国平均より長くかかっている。岩手県の現場到着時間が延長する理由について、図1、図3及び表1、表2から、読み取った図表を示しながら、200字以上250字以内で書きなさい。

問6 すべての図表を読み取って、適切な119番通報に必要なことについて、根拠となる図表を示しながら、350字以上400字以内で答えなさい。ただし、ここでいう119番通報とは、救急車とする。

3 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

あるクラスには10人の生徒がいます。このクラスで修学旅行の訪問地について話し合いました。その結果、5か所の訪問候補地の中から、3か所を訪問するということが決まりました。いま、10人の生徒を1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10とし、5か所の訪問候補地をa, b, c, d, eとします。生徒たちは、5か所の訪問候補地についてよく調べ、話し合いましたが、3か所に絞ることができなかつたので、投票で決めることにしました。投票では、すべての生徒は3か所をかならず記入し、同じ候補地を1回だけ記入することとします。

問1 5か所の観光地のなかから3か所を選ぶとき、選び方の総数を答えなさい。

問2 5か所の観光地のなかから選んだ3か所を訪問順に並べるときの総数を答えなさい。

問3 次の(1)と(2)に答えなさい。

(1) 1人の生徒が観光地cを含む投票をする確率を求めなさい。

(2) 1人の生徒が観光地aとbを含む投票をする確率を求めなさい。

問4 次の(1)と(2)に答えなさい。

(1) 1つの候補地が獲得する可能性のある最大得票数を示しなさい。その理由も述べること。

(2) 投票の結果で訪問地に決まった場合、1つの候補地が獲得する可能性のある最小得票数を示しなさい。その理由も述べること。

さて、実際に投票してみると、結果は以下のとおりでした。なお、投票で訪問地 a, b, c, d, e と記入した生徒の集合をそれぞれ A, B, C, D, E とします。

$A = \{5, 7, 8, 9, 10\}$ ,  $B = \{1, 3, 4, 6, 7, 9\}$ ,  $C = \{1, 2, 3, 5, 6, 8, 10\}$ ,  
 $D = \{1, 2, 4, 5, 7\}$ ,  $E = \{2, 3, 4, 6, 8, 9, 10\}$ ,

問5 修学旅行訪問地投票の結果をもとにして、下の集合図の中に生徒の番号を記入しなさい。

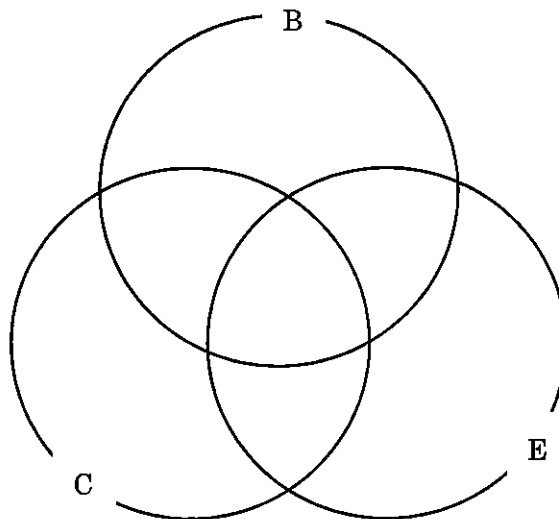


図 各訪問地に投票した生徒

問6 次の(1)から(5)について要素をすべて答えなさい。要素がない場合は $\phi$ としなさい。

- (1)  $B \cap C \cap E$
- (2)  $\overline{B \cup E}$
- (3)  $B \cap C \cap \bar{E}$
- (4)  $(B \cap C) \cup (B \cap E)$
- (5)  $\overline{B \cup C} \cap E$

問7 この投票結果では $\overline{B \cup C \cup E} = \phi$ となっている。この関係は、B, C, E の場合に限らず、訪問候補地のうちの3つが訪問地に決定した場合にも成り立つ。その理由を説明しなさい。

問 8 次の問いに答えなさい。

- (1) 「生徒 3 ならば訪問候補地 B に投票する」の真偽を答えなさい。
- (2) 「生徒 3 ならば訪問候補地 B に投票する」の逆命題を答えなさい。
- (3) (2)で作成した命題の真偽とその理由を答えなさい。
- (4) 「生徒 3 ならば訪問候補地 B に投票する」の対偶命題を答えなさい。
- (5) (4)の命題の真偽とその理由を答えなさい。